

# ベランダバードウォッチ 15 年夏の報告

バードリサーチ・日本野鳥の会栃木

ベランダバードウォッチも今夏で開始から 11 年が経ちました。今夏は、5 月に台風 6 号の強風が日本列島で吹き荒れ、梅雨明け後には真夏日が続き、お盆過ぎになると一転秋の長雨が始まりました。年々、気象状況が以前に比べて変わってきたように感じられます。このような、気象の変化は鳥たちの生息状況に何か影響をおよぼしたのでしょうか。以下に、2015 年の春から夏の調査で得られた結果についてまとめてみました。

## 調査状況

今夏は、北海道から九州までの 53 名によって、家の周りの調査 45 か所、家での調査 35 か所で調査が行なわれました。家での調査は昨年より 1 か所減少しましたが、一時に比べると回復傾向にあります。また、家の周りの調査は調査を開始以来最多となり、全体的に増加傾向にあります。地域的に見ると、調査地は全国にわたっていますがその 58%が関東地方で、北海道や東北地方、北陸地方、四国からはまだまだ少ないのが現状です。北日本や日本海側の調査地が少ないのは、冬の寒さや積雪などによって継続的な調査が難しいことも理由のひとつかもしれません。家での調査は繁殖期だけでも構いませんので、ぜひ参加していただければと思います。

## 安定している上位種の顔ぶれ

15 年夏の調査では、付表に示すように家の周りの調査で 118 種、家での調査 75 種が記録されました。ベランダバードウォッチは身近な鳥の調査ですが、調査地が全国にわたっており、調査期間も 4 月から 8 月（家の周りの調査）と長いために、カモ類やサギ類、シギチドリ類などの水辺の種や森林性の種など多種多様な種が記録されました。また、これらの中には日本産鳥類ばかりでなく、コジュケイやドバト、ホンセイインコ、ガビチョウ、ソウシチョウなどの外国産種も含まれていました。

記録率の上位種は、どちらの調査でもほぼ毎年同じ傾向があります。表 1 と表 2 は、直近の 3 年間のそれぞれの上位種の記録率を比べたものです。記録率は、各調査の全調査回数で記録された回数を除した値です。家の周りの調査では、15 位こそ年によって変わりますが、それ以外の 14 種の顔ぶれは 3 年間でまったく同じでした。しかも、上位 5 種の顔ぶれも順位こそ多少変

表1. 3シーズンの家の周りの記録率上位種の比較

	2013年 (394)		2014年 (343)		2015年 (403)	
1	スズメ	0.94	スズメ	0.90	スズメ	0.94
2	ヒヨドリ	0.92	キジバト	0.88	ヒヨドリ	0.87
3	キジバト	0.89	ヒヨドリ	0.88	キジバト	0.87
4	ハシブトガラス	0.86	ツバメ	0.79	ハシブトガラス	0.80
5	ツバメ	0.81	ハシブトガラス	0.78	ツバメ	0.79
6	シジュウカラ	0.76	ムクドリ	0.76	ムクドリ	0.78
7	ムクドリ	0.75	ハシボソガラス	0.72	シジュウカラ	0.71
8	ハシボソガラス	0.71	シジュウカラ	0.71	ハシボソガラス	0.70
9	カワラヒワ	0.65	カワラヒワ	0.55	カワラヒワ	0.55
10	メジロ	0.51	ハクセキレイ	0.55	ハクセキレイ	0.51
11	ウグイス	0.49	メジロ	0.49	ドバト	0.45
12	ハクセキレイ	0.49	ドバト	0.45	メジロ	0.43
13	コゲラ	0.45	コゲラ	0.43	コゲラ	0.43
14	ドバト	0.45	ウグイス	0.39	ウグイス	0.42
15	アオサギ	0.38	カルガモ	0.39	オナガ	0.33

調査年の括弧内の値は全調査回数を表す。

表2. 3シーズンの家での調査の記録率上位種の比較

No.	2013年 (197)		2014年 (281)		2015年 (305)	
1	スズメ	0.89	スズメ	0.83	スズメ	0.82
2	ヒヨドリ	0.88	ヒヨドリ	0.72	ヒヨドリ	0.72
3	キジバト	0.75	キジバト	0.71	キジバト	0.56
4	ハシブトガラス	0.73	ハシブトガラス	0.65	ムクドリ	0.54
5	ムクドリ	0.73	シジュウカラ	0.58	シジュウカラ	0.52
6	シジュウカラ	0.69	ムクドリ	0.57	ツバメ	0.52
7	ツバメ	0.66	ツバメ	0.53	ハシブトガラス	0.51
8	ハシボソガラス	0.65	メジロ	0.48	ハシボソガラス	0.45
9	メジロ	0.57	ハシボソガラス	0.46	メジロ	0.38
10	コゲラ	0.54	コゲラ	0.32	コゲラ	0.34
11	ドバト	0.43	ドバト	0.30	ドバト	0.27
12	カワラヒワ	0.37	カワラヒワ	0.30	カワラヒワ	0.25

調査年の括弧内の値は全調査回数を表す。

わりませんが同じでした。さらに、家での調査では上位 12 種の顔ぶれは 3 年間でまったく同じでした。調査地は年によって多少異なりますので、この記録種の一致は表 1 や表 2 の種が日本の住宅地周辺に生息する主要な種であることを表していると考えられます。

## メジロが減っている？

ここで、年ごとの記録率をみると同じ種でも多少変動があることがわかります。特に、どちらの調査でも今年メジロの記録率が低い傾向にあるようです。すなわち、13 年では家の周りや家での調査の記録率は 0.51 と 0.57 だったのが、15 年では 0.43 と 0.38 でした。同様の傾向は、14 年と 15 年でも見られました。調査開始当初からの家のまわりの調査の個体数ランクの変化を 2006 年を 1 とした相対値として見てみると、繁殖期はやや減少傾向にあり、越冬期は明確な減少傾向が

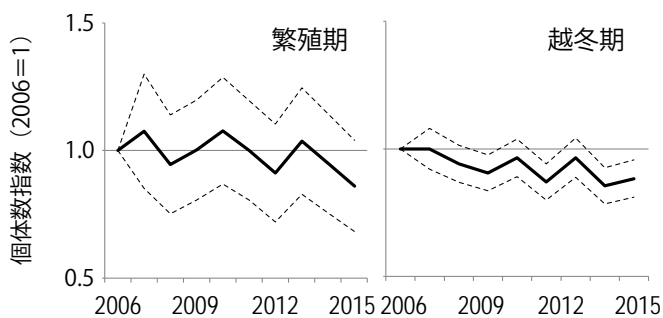


図 1. 家のまわりの調査で記録されたメジロの個体数指数の年変化. 過去 5 年以上調査されている調査地を対象に TRIM により 2006 年を 1 とした相対値の変化を示した。

あることがわかりました (図 1)。年による変動もあり、今後どのように変化していくのか、注意してみたいと思います。

### 夏に少なかった今年のメジロ

メジロの記録率を家の周りの調査データを基にもう少し詳しく調べてみました。調査地数が多かった関東地方の調査地のうち、14 年と 15 年に 3 月から 8 月までほぼ継続して調査が行なわれた 10 か所の調査地の結果を比べてみました。家の周りの調査は個体数を 6 段階の概数で報告します。そこで、個体数の概数の記録率も加味して季節変動を比較しました (図 2)。すると、3 月や 4 月では記録率や各個体数ランクの記録率とも両年で大きな違いはありませんでした。ところが、7 月中旬以降になると両年で顕著な違いがみられました。

7 月中旬では調査地数が同じにも関わらず、2014 年では「ランク 1：時々記録される」から「ランク 4：6～20 羽」まで記録され、記録率の合計も 0.6 でした。ところが 15 年ではランク 4 が 1 件 (記録率 0.1) だけでした。7 月下旬には記録率こそ 15 年が 0.57 と 14 年の 0.44 より上回りましたが、個体数ランクでは 14 年のほうが個体数の多いランク 3 や 4 も記録されました。したがって、関東地方の調査地を比較する限りでは、メジロは 15 年の方が 7 月中旬以降に記録率、個体数ランクとも低かったと言えそうです。なお、実際の個体数を記録する家での調査では、関東地方で両年とも調

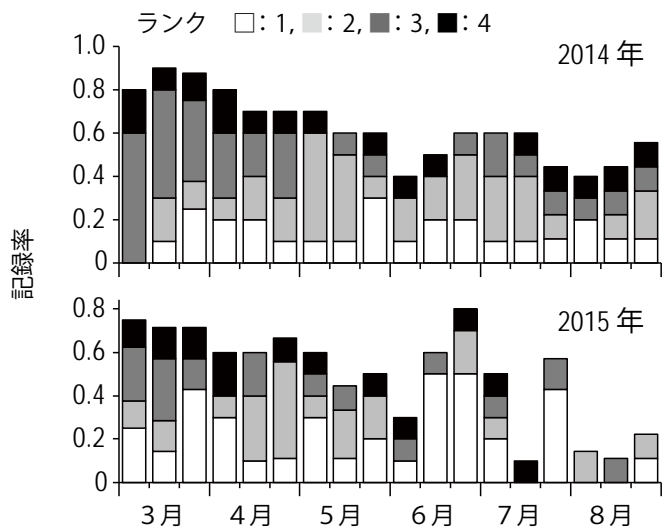


図 2. 2014 年と 15 年の関東地方の調査地におけるメジロの個体数ランクごとの記録率の比較. 1：時々記録される 2：1～2 羽 3：3～5 羽 4：6～20 羽

査が実施された調査地数が少なく比較できませんでした。

### 最後に

以上のように今年の夏季の調査からは、メジロの記録率や個体数ランクが 14 年より低い傾向にあり、経年的にも減少していることが示唆されました。特に顕著だったのが 7 月中旬以降でしたので、ともすると梅雨明け前後の気象条件と関係があるようにも見えますが、解析にもちいた調査地数が 10 か所と少ないためはっきりしたことは言えません。今夏の調査地数は例年より多かったのですが、地域別や環境別の解析にはまだまだ調査地が少ない状況です。今回、関東地方のデータを使ってメジロの記録率を比較しましたが、調査地がさらに増えれば、解析の精度もあがり、また、同様の解析を九州地方や近畿地方、東北・北海道などで実施することで、地域的な変動を比較することができるでしょう。

この調査は、調査地数や継続が命と言えます。家の周りのように周年にわたって調査を実施するのは労力的に大きな負担となります。しかし、調査を続けるこ

とで、今年は昨年と違ってシジュウカラが少ないとか、徐々にエナガが記録されるようになったなど、身のまわりで起きている鳥たちの出来事を知ることができます。継続は力なりです。はたして、来年のメジロの記録率はどう変化するのでしょうか。ぜひ今後とも継続して参加していただくとともに、この調査を友人・知人に広げていただければ嬉しい限りです。以下にご参加いただきました皆様のご芳名を記してお礼に替えさせていただきます。

飯泉仁、石口富實枝、石谷匠美、石原渉、入舩憲一、植田睦之、上原勇一郎、上山義之、大出水幹男、大塚啓子、岡崎雅幸、沖田絵麻、加藤智子、川畑紘、熊谷高博、倉掛節子、黒沢令子、小荷田行男、小林俊子、小堀脩男、齋田礼門、齊藤けい子、齋藤映樹、坂田樹美、笹野義一、佐藤眞貴子、佐藤留美子、白石健一、白石ひとみ、鈴木遼太郎、須田由美、竹内敦子、田中利彦、tomoko.t、長嶋宏之、中村康弘、中山直子、丹羽和夫、平田輝明、平野敏明、藤原淳子、松田美佐子、溝手加代、三田長久、三宅真弓、宮崎征志、矢島早苗、安田耕治、横山哲也、吉中康展、吉邨隆資、脇坂ヨシ子、渡邊ケイコの各氏

とりまとめ：平野敏明・植田睦之

付表. ベランダバードウォッチ2015年夏の記録種一覧

種名	周り	家	種名	周り	家	種名	周り	家
1 キジ	○	○	41 セグロカモメ	○		81 メボソムシクイ		○
2 ヨシガモ	○		42 コアジサシ	○		82 エゾムシクイ		○
3 ヒドリガモ	○		43 ミサゴ	○	○	83 センダイムシクイ	○	○
4 マガモ	○		44 ハチクマ	○		84 メジロ	○	○
5 カルガモ	○	○	45 トビ	○	○	85 エゾセンニュウ	○	○
6 ハシビロガモ	○		46 ツミ	○	○	86 オオヨシキリ	○	○
7 コガモ	○		47 オオタカ	○	○	87 セッカ	○	
8 ホシハジロ	○		48 サシバ	○	○	88 ゴジュウカラ	○	○
9 キンクロハジロ	○		49 ノスリ	○		89 ムクドリ	○	○
10 カイツブリ	○		50 フクロウ	○		90 コムクドリ	○	○
11 キジバト	○	○	51 アオバズク	○	○	91 クロツグミ	○	○
12 アオバト	○	○	52 アカショウビン	○	○	92 シロハラ	○	○
13 カワウ	○	○	53 カワセミ	○	○	93 アカハラ	○	○
14 ウミウ	○		54 プッポウソウ	○		94 ツグミ	○	○
15 ゴイサギ	○		55 コゲラ	○	○	95 ルリビタキ	○	
16 ササゴイ	○	○	56 アカゲラ	○	○	96 ジョウビタキ	○	○
17 アマサギ	○		57 アオゲラ	○	○	97 イソヒヨドリ	○	○
18 アオサギ	○	○	58 チョウゲンボウ	○	○	98 キビタキ	○	○
19 ダイサギ	○	○	59 ハヤブサ	○		99 オオルリ	○	○
20 チュウサギ	○		60 サンショウクイ	○		100 ニュウナイスズメ	○	
21 コサギ	○	○	61 サンコウチョウ	○		101 スズメ	○	○
22 クイナ	○		62 モズ	○	○	102 キセキレイ	○	○
23 ヒクイナ	○		63 カケス	○	○	103 ハクセキレイ	○	○
24 パン	○		64 オナガ	○	○	104 セグロセキレイ	○	○
25 オオバン	○		65 カササギ	○		105 ビンズイ	○	○
26 ホトトギス	○	○	66 ハシボソガラス	○	○	106 アトリ	○	
27 ツツドリ	○	○	67 ハシブトガラス	○	○	107 カワラヒワ	○	○
28 カッコウ	○	○	68 ハシブトガラ	○		108 マヒワ	○	○
29 アマツバメ	○	○	69 ヤマガラ	○	○	109 ウソ	○	
30 ヒメアマツバメ	○	○	70 ヒガラ	○	○	110 シメ	○	○
31 ケリ	○		71 シジュウカラ	○	○	111 イカル	○	○
32 イカルチドリ	○		72 ヒバリ	○	○	112 ホオジロ	○	○
33 コチドリ	○	○	73 ショウドウツバメ	○		113 カシラダカ	○	
34 ヤマシギ	○		74 ツバメ	○	○	114 アオジ	○	○
35 タシギ	○		75 コシアカツバメ	○	○	115 コジュケイ	○	○
36 クサシギ	○		76 イワツバメ	○	○	116 ドバト	○	○
37 イソシギ	○	○	77 ヒヨドリ	○	○	117 ホンセイインコ	○	○
38 アカエリヒレアシシ:	○		78 ウグイス	○	○	118 ガビチョウ	○	○
39 ウミネコ	○		79 エナガ	○	○	119 ソウシチョウ	○	
40 カモメ	○		80 オオムシクイ	○	○	記録種数	118	75